

2020/05/27

リトルハウス通信



この3つの写真はなんだと思いますか？

いっけんするとカレーを煮込んでいるようにも見えますが……（笑）、
実は粉せっけんの製造過程なんです。

先日、職員、利用者共に粉せっけん製造に従事しましたので、今回はそのお話をさせていただきます。

まず、粉せっけんの製造過程についてですが、廃油と水酸化ナトリウムを配合し、それを4時間ほど熱を入れて反応させていくところから始まります。

問題はその火加減です。色合いをみて細かい調整をする為、終始、せっけん窯に張り付いている必要があります。その絶妙な色と形状の変化に応じ、ベテラン職員&利用者が細かい火力調整を行うのです。

上の写真の一番左の状態から4時間ほど反応させると、真ん中の写真のような色合いになります。その後、炭酸ナトリウムを混入し、せっけんの原型が完成します。

翌日、その「せっけんの原型」を2回の工程に分けて細かく粉碎して粉せっけんが完成となります。

粉せっけんの成分のひとつである炭酸ナトリウムは、アルカリ性（PH10）を保つことで強い洗浄力を保ちます。またこの石鹼を作る工程中でグリセリンが生じますが、グリセリンは皮膚の保湿成分として広く持ちいられている成分で、このグリセリンを捨てることなくそのまま利用しているのがリトルハウスの粉せっけんの特徴です。

この製法は経験を重ねて生み出されたものです。

結果として、ひとつの粉せっけんを作るまでに、手間をたくさんかけ、高い水準にこだわって仕上げています。

是非一度お試ししてみたいはいかがでしょうか。

【在宅支援も継続中】

先月のリトルハウス通信でもお伝えしたように、新型コロナウイルスの影響により、施設利用者が通所をせず「在宅支援」を選択できるようになりました。

現在リトルハウスの利用者のおよそ半数以上が通所ではなくこの在宅支援を受けている状態です。

在宅支援の主な内容は「新型コロナ対策」「健康状態」「生活状況」「課題」を1日2回の電話で確認し、一緒に考えていくというものです。

通常、利用者の方が通所している場合、利用者スタッフとの主な会話は「作業」についてがほとんどです。

しかし電話での在宅支援の場合、日常の出来事に対してどのように感じているかを具体的な言葉を使って話してもらう為、利用者の方の知られざる（気づいていなかった）一面に出会える絶好の機会にもなっています。

一例をあげれば、生活状況を確認していく中で、ある利用者の方がかなり高レベルの調理スキルをお持ちである事がわかった事です。

生の食パンから衣を作るエビフライの作り方や、小麦粉から作るクリームシチューの作り方等々、手間をかけた分だけ食材がおいしく変化していく様子を沢山の言葉を使って私たちに教えてくれ、私たちの気持ちをワクワクさせてくれます。

その言葉には弾むような楽しさがあり、普段の何倍も会話に彩りが生まれるのです。

電話の場合、お互いが歩み寄りなければコミュニケーションがそもそも成立しないツールでもあり「能動的な会話」が必然的に生まれやすいのが逆に幸いしたのでしょうか。それが無いと電話の場合、無言になってしまいますからね（笑）

在宅支援を行った結果として、コミュニケーションには能動性がいかに大切であるかを学ぶ事ができました。

緊急事態宣言が解除になり、「新たな」日常がスタートしようとしています。そんな中、対面であれ、多種多様なコミュニケーションツールであれ、人と人のコミュニケーションが行われる場合、お互いがお互いの為に、少しでも「能動的な楽しさ」を意識して語りかけ、それに耳を傾ける事ができたなら、今まで以上に「豊かな」コミュニケーションが成立するのではないのでしょうか。 (鈴木)